



The 48th Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Hypertension

第48回日本高血圧学会総会

モーニングセミナー3

Morning Seminar 3

日時

2026年 10月11日(日) 8:10～9:00 (50分)

会場

第7会場 ライトキューブ宇都宮

1F 小会議室103+104

〒321-0969 栃木県宇都宮市宮みらい1-20

血圧脈波検査を再考する

—CAVIの経時変化とASスクリーニングが示す
新たな臨床価値—

座長

田中 敦史 先生

佐賀大学医学部 内科学講座(循環器内科) 特定教授

脈波と心音図を用いた 大動脈弁狭窄症のスクリーニング

演者

小形 幸代 先生

自治医科大学 循環器内科学部門 講師

CAVIは一度だけでなく、 続けてみることに意味がある

演者

甲谷 友幸 先生

自治医科大学 循環器内科学部門・
成人先天性心疾患センター 准教授

本セミナーは整理券制ではありません

直接会場にお越しいただき、先着順にご入場いただきます。
なお、軽食数・席数には限りがありますので予めご了承ください。

共催：第48回日本高血圧学会総会／フクダ電子株式会社

第48回日本高血圧学会総会

モーニングセミナー3

血圧脈波検査を再考する

—CAVIの経時変化とASスクリーニングが示す新たな臨床価値—

脈波と心音図を用いた大動脈弁狭窄症のスクリーニング

小形 幸代

自治医科大学 循環器内科学部門 講師

大動脈弁狭窄症 (AS) は重症化すると突然死のリスクを伴うが、適切な時期に治療介入することで予後改善が期待できる。我々は、動脈硬化スクリーニングに広く用いられている血圧脈波検査装置VaSeraから得られる脈波・心音図を利用したASスクリーニング法を検討してきた。これまで、上腕脈波のInitial Upstroke Time (IUT) が重症ASの予測に有用であることを報告した。今回、IUTと心音図から算出される収縮期雑音指標Systolic Murmur Area (SMA) を組み合わせ、AS判別アルゴリズムを構築した。循環器内科外来患者521例 (正常488例、AS33例) における検証では、感度97%、特異度92%、精度92%と高い診断能を示した。IUTとSMAの組み合わせは、日常診療で実施される血圧脈波検査を活用した非侵襲的なASスクリーニング法として、ASの早期発見に寄与する可能性がある。

CAVIは一度だけでなく、続けてみることに意味がある

甲谷 友幸

自治医科大学 循環器内科学部門・成人先天性心疾患センター 准教授

Cardio-Ankle Vascular Index (CAVI) は動脈スティフネスを反映する指標として心血管リスク評価に有用であるが、単回測定だけでなく経時的変化の意義は十分に検証されていない。COUPLING Registryでは、ベースラインCAVI高値は心血管イベントの独立した予測因子であり、特にCAVI高値とABI軽度低下の併存例、さらに仰臥位高血圧を有する症例でリスクが増大することを報告した。4,032例を対象とした今回の解析では、1年間のCAVI変化とその後の心血管イベントとの関連を検討した。CAVI 9を基準に分類した結果、65歳未満ではCAVIが高値で持続した群だけでなく悪化した群で心血管イベントリスクが有意に上昇した。この結果は、若年～中年層のリスク層別化において、CAVIを継続的に測定し、その推移を評価することの重要性を示唆する。CAVIは「その時点のリスク」を捉えるだけでなく、「将来のリスク変化」を把握するための指標であり、継続測定による動脈機能のモニタリングが新たな心血管予防戦略につながる可能性がある。

共催:第48回日本高血圧学会総会／フクダ電子株式会社



The 48th Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Hypertension

第48回日本高血圧学会総会

スポンサードセミナー10

Sponsored Seminar 10

日時

2026年 10月12日(月・祝) 13:00～14:10 (70分)

会場

第1会場 ライトキューブ宇都宮
1F 大ホール西

〒321-0969 栃木県宇都宮市宮みらい1-20

血管機能評価を活かした高血圧診療の最適化

座長

苅尾 七臣 先生 自治医科大学 循環器内科学部門 教授

仰臥位血圧の測定意義について (10分)

演者

苅尾 七臣 先生 自治医科大学 循環器内科学部門 教授

高血圧併存疾患に対する薬物療法の血管Stiffnessに対する影響 –多施設臨床研究の結果より– (10分)

演者

田中 敦史 先生 佐賀大学医学部 内科学講座(循環器内科) 特定教授

心臓と血管の連関を意識した高血圧診療 (10分)

演者

清水 一寛 先生 東邦大学医療センター佐倉病院 循環器内科 准教授

実臨床における降圧薬投与時の血管機能検査の活用 (10分)

演者

河野 健 先生 大和田内科・循環器科・胃腸科 院長

特定健診における血管機能検査の意義 –東温市におけるCAVI導入事業– (10分)

演者

宮崎 慈大 先生 愛媛大学大学院医学系研究科 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 客員研究員

血管機能検査を活用した高血圧診療について (パネルディスカッション) (20分)

本セミナーは整理券制ではありません

直接会場にお越しいただき、先着順にご入場いただきます。
なお、軽食数には限りがありますので予めご了承ください。

共催: 第48回日本高血圧学会総会 / フクダ電子株式会社

Sponsored Seminar 10

血圧管理の目標は、単なる降圧ではなく心血管イベントの予防にある。その実現のためには、血圧値のみならず血管障害や臓器障害の進展を包括的に評価し、個々の患者に応じたリスク管理を行うことが重要である。近年、CAVIをはじめとする血管機能検査は、動脈ステイフネスを非侵襲的に評価する手法として普及しつつあり、心血管リスクの層別化や治療介入効果の評価への活用が期待されている。

本セミナーでは、血管機能検査を切り口として、高血圧診療の新たな可能性について議論する。仰臥位血圧測定から得られる新たなリスク評価の視点、SGLT2阻害薬やフィネレノン、尿酸降下薬など高血圧併存疾患に対する治療が血管ステイフネスに及ぼす影響、さらにCAVIを用いた血管機能評価と心臓リモデリングとの関連など、多面的な観点から最新の知見を紹介する。

また、降圧治療による血管機能の変化を可視化することが、患者の病態理解や治療継続にどのように寄与するかといった実臨床での活用に加え、特定健診におけるCAVI導入の経験を通じて、血管機能検査が受診動機の向上や健康支援に果たし得る役割についても考察する。

パネルディスカッションでは、血管機能検査によって得られる情報をいかに日常診療へ還元し、患者のリスク評価や治療戦略の最適化につなげるかについて議論する。高血圧診療における血管機能評価の今後の役割と可能性を、多様な視点から展望する。